

# 山のイモ(長イモ)



(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
ムカゴ(芽子)繁殖の場合	床作り 1アール当り	<ul style="list-style-type: none"> <li>●堆厩肥 200kg</li> <li>●硫安 10kg</li> <li>●畑の大将&lt;青&gt; 5kg</li> <li>●ラクトバチルス 100kg</li> </ul> <p>※翌年タネイモとして使う場合も、2年養成の場合も、同じです。 ※根っ酵素液、花咲くCa液で調整する。</p>
本圃の地力作り	なるべく早く (植付けまでに20日以上おく事)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ラクトバチルス 600kg</li> <li>→保水性と通気性がよく、連作の効く地力を作る。</li> <li>●堆厩肥 2トン</li> <li>●硫安 60kg (もし通常の複合肥料なら、チッソ成分4kg程度)</li> <li>●畑の大将&lt;青&gt; 60kg</li> </ul> <p>※特に堆肥不足の場合のみ、硫酸カリ 20kg追加。 ※ラクト・バチルスにより植付け時の土壌EC:0.2以下となります。</p>
整地時	整地前に全面散布 (または地力作り時に同時投入)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●畑の大将&lt;青&gt; 60kg</li> <li>※上記の地力作り時に施してある場合は不要。</li> <li>※土壌pH:6.2を標準とし、高pHなら 田畑の大将(赤)。</li> <li>●マンゾク粒状 60kg</li> <li>(線虫・褐色腐敗など 土壌病害が心配な畑に。)</li> <li>→根を強く働かせて、生長を促進。</li> </ul>
定植後	定植後の灌水に	<ul style="list-style-type: none"> <li>●根っ酵素 500倍液を灌水</li> <li>→強い根が出て、健全な生長を促す。</li> <li>※定植後しばらくの間(ツル3cmまで)の灌水に。</li> </ul>
春期の調整	ツルや葉を見て調整する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●根っ酵素 500倍液を葉面散布。</li> <li>※生長が弱いのはほとんど根の障害なので、根っ酵素を。</li> <li>※普通、追肥は不要。</li> <li>砂地などで本当にチッソ不足の時だけ、硫安10kgを施す。</li> <li>花咲くCa液 500倍を葉面散布。</li> <li>※徒長し、葉が薄く広く、葉色が濃く、垂れている場合は Caを。</li> </ul>
後期	7月下旬(開花始め)~9月イモの肥大期	<ul style="list-style-type: none"> <li>●畑の大将&lt;青&gt; 20kg</li> <li>→イモへのデンプン蓄積を促進。</li> <li>※または、花咲くCa液 500倍の葉面散布。</li> </ul>

ヤマノイモの露地・パイプ栽培で、パイプ中に埋めこむ用土は…

- 畑土・赤土を混合したもの 100kg
- 堆厩肥 20kg
- ラクトバチルス 50g
- マンゾク粒状 5kg(土の浄化、病原菌の抑制)

混合後1ヵ月以上おいて、安定してから使用してください。